

岩手教区報

第379号
 立教187年7月1日
 天理教岩手教務支庁
 盛岡市馬場町3-40
 TEL 019-622-7962
 FAX 019-623-9597



少ひ隊参加への声かけを 主事・少年会団長 高橋 邦和



昭和47年の年頭幹部会において、教会内容の充実を目指す教会おとまり会と、支部の常時活動を進めるために、少年ひのきしん隊（以下、少ひ隊）を各支部に結成することが打ち出されました。その前年のこともおちばがえりに、各教区団から3名ずつのわかぎを出して、お茶接待などのひのきしんや仕込み行事を行って、隊長クラスの育成をはかったことが元になっています。それ以来毎年実施され、昭和57年からは少ひ隊本部練成会となつて、毎年多くの中学生が参加して、「人のため つくすよろこびひろげよう」との合い言葉のもと、おちばでのひのきしんを通して、同世代の仲間と一緒に大きな喜びと感動を味わって来ています。

少ひ隊は、なかなかおちばに帰る機会が少ない、あるいはまとまった日数を過ごす機会の少ない中学生にとつて、おちばへ伏せ込む絶好の場です。そして、定められた期間をおちばで過ごすことは、子供にとつて、おちばの空気を十分に感じる貴重な体験になります。期間中の生活は団体生活ですので、規律は厳しく、時間にも縛られます。また朝も早く、炎天下での活動ですので、彼らにとつてはものすごく厳しい生

活だと思えます。隊員の中には知り合いもなく、初めて参加した子もいます。ですから、初めはやる気のない態度をする子も目にします。ところが、そんな彼らの態度が一変するときがあります。それは1回目のお茶接待ひのきしんから帰ってきたときです。それまでの表情とはがらつと変わつて、ありつたけの笑顔で「ただいま！」と帰ってきます。「ありがとう」とか「暑い中ご苦労さま」とか「冷たくておいしいね」と、いろんな人が声をかけてもらうその一つひとつの言葉が、彼らに勇み心を与えているのだと思えます。

前真柱様は、年頭幹部会において、少ひ隊についてふれられた際に、人に喜んでもらったといううれしさは、何ものにもかえがたく、それは若いとき程その記憶、喜びは心に深く刻まれるものと仰せられました。感受性が豊かなわかぎ層だからこそ、喜びも大きく感じることができ、不安や疲れの中を仲間と励ましあつて乗り切るなどの体験を通して、信仰の本当の喜びを垣間みて、成人へのきつかけと意欲を得るのだと思えます。どうか、教会から、支部から、一人でも多くの隊員の参加をお待ち申し上げます。



「お道の初め」

信仰随想執筆のお役を頂戴し、膨らんだ腹が引き締まる思いです。教区教友の皆様にお勇み頂ける話は書けないと思いますが、過ぎし日々を思い返し、気持ちのあれこれを認めさせていただきます。

小南部大教会では毎月26日前後、役員准役員が交代で、詰所修養科生に役員講話を実施しています。私も年に数回役目を頂き、毎回修養科生にこう問いかけています。「親神様の実在を感じられましたか」「教祖がご存命でお働きくださいたいことを確信できましたか」と。そして一人ひとりの反応を見て、次の展開に繋げていくようにしています。

元治元年五月、飯降伊蔵先生が初めて参詣した際、教祖は、「天理王命という神は初めての事なれば、誠にする事難しから」と仰せられました。伊蔵先生は頂戴した散葉によつて妻の容態がほんの少

し回復の兆しを見ただけで、初めての神を誠になされた。後に本席となられる魂の方とはいえ、疑い深い人ばかりの世で、驚くべき素直さに感服させられます。

さて、その疑い深さでは引けを取らない私のケースです。私の初帰参は中学2年のこどもおちばがえりですが、6年後の大学2年の時、東京から吉野の桜を見に行った帰りに、当時専修科に学んでいた妹に会いに詰所に寄つたところ、前大教会長様が居られ、「おーいいところに来て。今丁度大切なお話が聞けるから行ってこい」と言われ、別席札を渡されました。ウナギやふぐの荒唐無稽の話は退屈でしかなく、「親は何でこんな教えを信仰しているのだろう」と疑問に思いつつ、「二度とこの街には来ない」と決意をして東京に戻りました。ところが8年後、私には修養科も講習も受けた兄がいますが、教会を継ぐことを拒否して飛び出したため、私に後継の話が出てきます。信仰心は皆無でしたが、親孝心は人並みにありましたので、その話を受けさせていただき、やり残した夢の実現のため、ネパールの山岳トレッキングに向かいました。

トレッキングを終え、所持金が尽きるまで気の向くまま1年ほど各地を放浪することになるのですが、帰国後入った修養科で聞いた別席二席目で、私は雷に

打たれたような衝撃を受けたのです。あれほど違和感を持つていた元の理の話が、理解できるレベルではないのにスーッと胸に治まり、しかも、「これは凄い話だ、これこそが本物だ、これを腹を括つて勉強してみよう」と受け止められたのです。私は気ままな旅をしているつもりでしたが、行く先々で生活に根ざした多くの生の宗教を見せられていたことに気付かされた。それあつての衝撃の二席目だったと思えてなりません。

にんけんをはじめたをやがも一にんどこにあるならたつねいてみよ
 (八号75)

行事予定 7月分

- 1日 役員会議 (10時)
- 6日 広報部編集会議 (17時)
- 7日 学生担当委員会例会 (19時30分)
- 13日 女子青年例会 (10時)
- 16日 青年会例会 (19時)
- 21日 少ひ隊教区練成会 (10時)
- 27日 少ひ隊本部練成会 (8月2日)



教区青年会は、5月18(土)、19日(日)の両日、親里において、「岩手っ子だよ! 全員集合in天理」を開催し、親里や近隣

全員集合in天理 報告

「岩手っ子だよ!」



青年会

在住の岩手に繋がる若者ら、2日間のべ28人が参加した。18日(夜の部)は、20歳以上を対象に、天理市内の居酒屋にて懇親会を行った。はじめに、村松義朗委員長が鈴木眞彦

【第30次隊作業内容】

- ※3教区隊、青年会本部隊全体で
・作業区域 輪島市、珠洲市、志賀町
・作業成果 ブロック塀解体19件、門解体1件
災害ゴミ運搬4トダンプ4回、3トダンプ35回

第2回「教祖140年祭 ようぼく一斉活動日」報告

岩手教区では、第2回「教祖140年祭 ようぼく一斉活動日」を左記の通り、全支部で開催した。参加者の内訳は、教会長50人、布教所長7人、ようぼく228人、その他17人、総数312人であった。

Table with 2 columns: Date and Branch Name/Personnel Count.



花巻分教会



教務支庁



災 救 隊

「能登半島地震」出動報告

災救援隊岩手教区隊は、災救援隊本部の要請を受け、去る5月14日から16日にかけて、「令和6年能登半島地震」災救援隊本部隊第30次隊に、隊員ら13人が出動した。13日の早朝に岩手を出発し、同日夕刻に石川県輪島市の宿营地となった。午後7時から、滋賀、兵庫、岩手の3教区隊と青年会本部隊が出席して結隊式が行われた。人員確認の後、おつとめをつとめ、第30次隊隊長である田邊幹善・災救援隊副部長に続いて高瀬徹・石川教区主事がそれぞれ挨拶に立った。次に、千葉道雄・岩手教区隊長が宣誓唱和をつとめ、結隊式は終了。続いて、オリエンテーションに移った。

出動初日となった14日は、珠洲市内が現場となり、仮復旧した幹線道路を約一時間かけて、本部隊が用意したダンプ等の車両に乗り込み移動した。まずは個人医院のブロック塀の解体撤去が作業内容となり、ハンマードリルやグラインダー、大ハンマーなどを駆使してブロック塀を

細かく砕いて、集積場所へ運搬する作業に汗を流した。



区隊の一手一つのひのきしんは、作業効率が特に良好なものであり、一日掛かると見込まれていた作業が半日で終了。午後には新たな現場を移動し、個人宅の門の解体撤去と瓦礫の運搬となった。

15日、16日も珠洲市内の個人宅のブロック塀解体が作業内容となったが、その中で、重機の操作に慣れていないと作業が難しいとされ、数か月前から保留になっていた現場案件があり、そこに、初日の当教区隊の働きぶりを見た本部隊から声が掛かり、相澤元副隊長はじめオペレーター班が、約50メートルのブロック塀の解体撤去に尽力した。

16日最終日午前、与えられた作業を全て無事完了し、宿舎の清掃の後行われた解散式では、3日間の作業報告がなされ、田邊副部長が謝辞を述べられた。その後解散となり、隊員らは岩手への帰路についた。

教区長の挨拶を代読し、続いて参加者の自己紹介があり、その後、岩手に関するクイズなどで大いに盛り上がり、参加者同士の親睦を深めた。翌19日(昼の部)は、16歳以上を対象に、午前10時、南礼拝場前に集合。前日同様、挨拶、自己紹介ののち、神殿廻廊床板間の埃取りひのきしんをつとめさせて頂いた。その後、天理市内の飲食店に移動し、和気あいあいとした雰囲気の中で昼食を取りながら、全員でビンゴゲームを楽しんだ。



少年会

「立教187年少年ひのきしん隊」

本部練成会合同隊

Table with 2 columns: Target and Details (Date, Location, etc.).

訂正のお知らせ

【教区報6月号ひのきしんデー】
【誤】桜保育園12人→【正】桜保育園24人
【誤】鍋倉公園6人→【正】鍋倉公園8人
【追加】奥州支部・伊手分教会周辺8人

「陽気ぐらし講座」開催予定(7月)

Table with 2 columns: Date and Time.

講師 中田祥浩